



# ブラジル中銀の金融政策と大統領選挙の最新動向

- ブラジル中銀は4会合連続で政策金利を6.50%で据え置き。ブラジル中銀はインフレ基調は適切な水準にあると評価。
- 大統領選挙の最新世論調査は、ハダジ氏の支持率が19%へ急上昇し、ボルソナロ氏との決選投票の可能性を示唆。
- 第一回投票までの間に支持率が大きく変動する可能性も残る。前回の大統領選挙では残り2週間で支持率が逆転。
- アルキミン陣営はボルソナロ氏への直接批判を再開。事実上の休戦状態にあった選挙戦は今後2週間が正念場。

## ブラジル中銀は4会合連続で政策金利を据え置き

ブラジル中央銀行は9月18-19日の金融政策委員会(COPOM)において、4会合連続で政策金利を6.50%に据え置く決定を下しました(図1)。2018年8月の拡大消費者物価指数(IPCA)が前年比+4.2%へ低下するなど、インフレ率は安定を取り戻し始めており、ブラジル中銀は足元のインフレ基調は適切な水準にあるとの評価を示しています。

ブラジル中銀は、「今後の金融政策は経済動向次第」との方針を示しています。直近の市場コンセンサスによれば、政策金利は2019年3月まで据え置かれる見込みです。

## 大統領選挙戦は今後の2週間が正念場に

ブラジル大統領選挙の第一回投票(10月7日)まで残り2週間余りとなる中、選挙情勢に変化が見えつつあります。

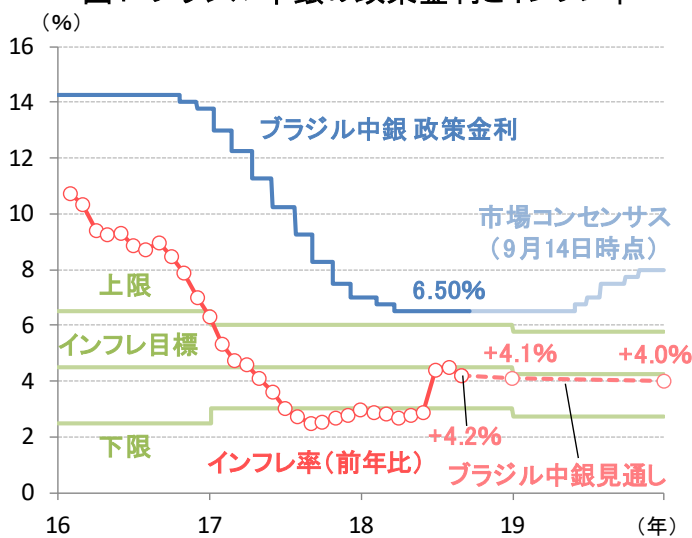
9月18日に公表された最新世論調査(IBOPE)では、ルーラ氏に代わり労働者党(PT)の大統領候補となったハダジ氏の支持率が8%から19%へ急上昇しました(図2)。ボルソナロ氏(PSL)も支持率が28%へ緩やかに上昇し、決選投票はボルソナロ氏(極右)とハダジ氏(左派)の両極対決となる可能性が示唆されました。

もともと、第一回投票までの残り2週間余りで支持率が大きく変動する可能性も残されていると考えられます。

前回2014年の大統領選挙を振り返ると、9月19日時点の世論調査では、ジルマ・ルセフ氏(支持率37%)とマリナ・シルバ氏(30%)にアエシオ・ネベス氏(17%)は大きく後れを取っていました。しかし、残り2週間の選挙戦でシルバ氏へのネガティブ・キャンペーンが展開され、決選投票にはルセフ氏とネベス氏が進む結果となりました。

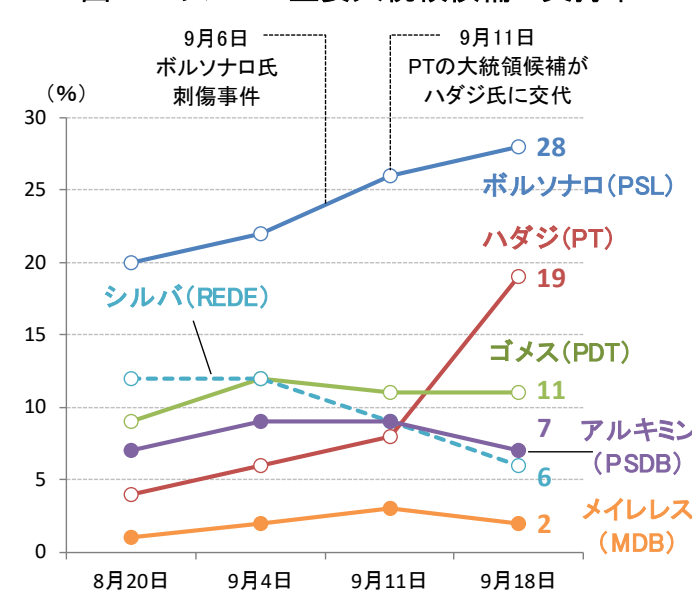
テレビ放送時間で優位に立つアルキミン陣営は、ボルソナロ氏の刺傷事件を受けて控えてきたボルソナロ氏への直接批判を再開することを決めており、事実上の休戦状態にあった選挙戦は今後の2週間が正念場となりそうです。

図1:ブラジル中銀の政策金利とインフレ率



(出所)ブラジル中銀、ブラジル地理統計院(IBGE)  
 (期間)政策金利:2016年1月1日～2018年9月19日  
 拡大消費者物価指数(IPCA):2016年1月～2018年8月  
 (注)ブラジル中銀のインフレ見通し(市場シナリオ)は、政策金利と為替レートの予想前提に市場コンセンサスを使用したもの。

図2:ブラジルの主要大統領候補の支持率



(出所)世論調査会社IBOPE

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したもので、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。